

方程式 2・1次方程式の利用

1 解き方の基本 (その5)

(1/4) ■ 過不足の問題 (等置法) ② ■

過不足の問題②いくら分を表す等式

— ●★解法の技術★の学習のしかた● —

- (1) 下の答案を理解し, 「考え方」を覚えましょう。／覚えたら, ……
- (2) 模範解答を見ないで, 「理解のチェック」の問題を解いてみましょう。
(答案を見ながら書くと勉強になりません。一度, 「考え方」を頭の中に入れることが大切です。)

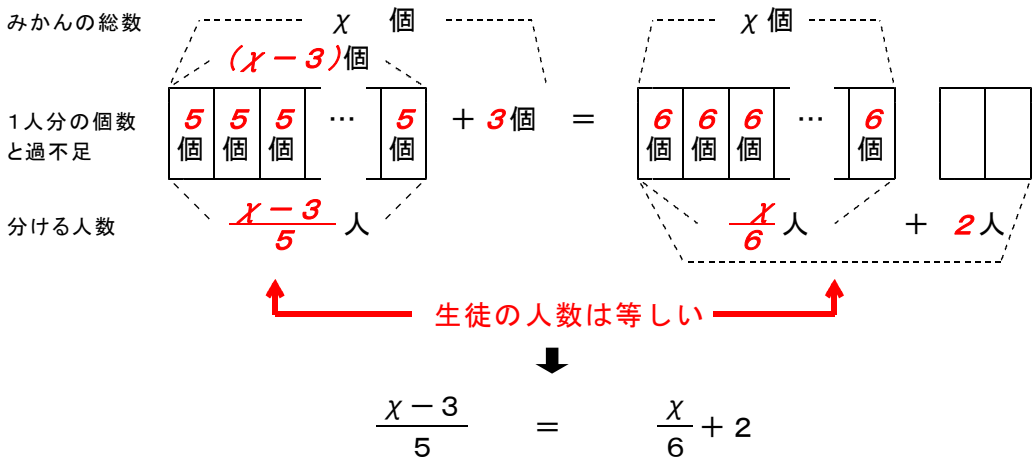
◇ 《いくら分を表す等式を作る》 **学力化** →

★解法の技術★

1箱に入っているみかんを何人かに分けるのに, 1人に5個ずつ分けると3個余り, 6個ずつ分けるとちょうど2人には分けることができます。

1箱に入っているみかんの総数を x 個として方程式を立てて答えなさい。

【考え方】 1箱に入っているみかんの総数を x 個として, 数量関係を図に表すと,



(次のページへつづく) ↗

□ □ 【方程式 No. 20 (1/4)】 - 〈2枚目/2枚〉

➔ (前のページからのつづき)

[考える手順]

1 未知数を決める

2 方程式を立てる

3 方程式を解く

4 たしかめ

5 答を書く

[答 案]

1箱に入っているみかんの総数を x 個とする。

分ける人数の関係を求める式を作ると、

$$\frac{x-3}{5} = \frac{x}{6} + 2$$

これを解いて、

$$\text{両辺} \times 30 \text{ より } 6(x-3) = 5x + 60$$

$$6x - 18 = 5x + 60$$

$$6x - 5x = 60 + 18$$

$$x = 78$$

みかんの総数を78個とすると、人数は、

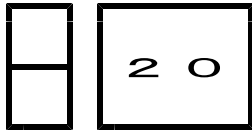
$$\text{場合1 } \frac{78-3}{5} = 15 \text{ (人)}$$

$$\text{場合2 } \frac{78}{6} + 2 = 15 \text{ (人)}$$

となり等しい。

よって、これは問題に合っている。

答 みかんの総数 78個



方程式 2・1次方程式の利用

1 解き方の基本 (その5)

(2/4) ■ 過不足の問題 (等置法) ② ■

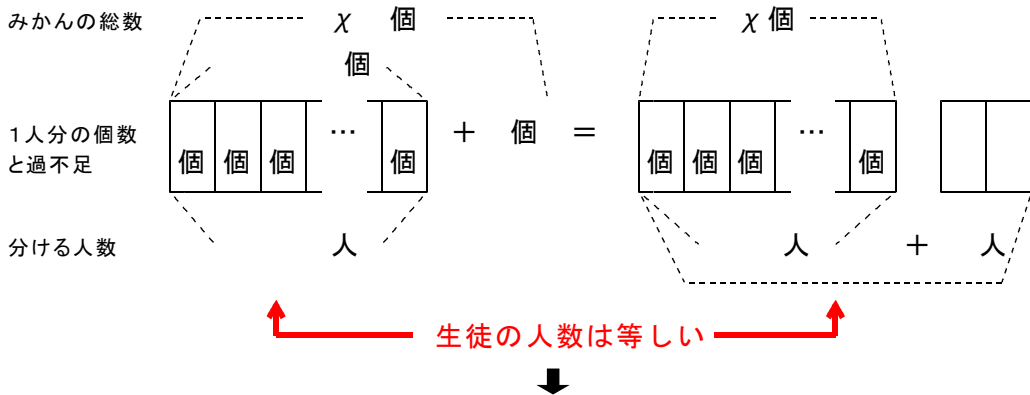
◇ 《いくら分を表す等式を作る》 **学力化** → /

-----★理解のチェック★-----

(1) 1箱に入っているみかんを何人かに分けるのに、1人に5個ずつ分けると3個余り、6個ずつ分けるとちょうど2人には分けることができませんでした。

1箱に入っているみかんの総数を x 個として方程式を立てて答えなさい。

【考え方】 1箱に入っているみかんの総数を x 個として、数量関係を図に表すと、



[考える手順]

1 未知数を決める

2 方程式を立てる

[答 案]

分ける人数の関係を求める式を作ると、

(次のページへつづく) ↗

□ □ 【方程式 No. 20 (2/4)】 - (2枚目/2枚)

➔ (前のページからのつづき)

3 方程式を解く

これを解いて,

4 たしかめ

みかんの総数を 個とすると, 人数は,

場合 1

.....

場合 2

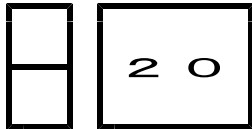
.....

となり等しい。

よって, これは問題に合っている。

5 答を書く

答 _____



方程式 2・1 次方程式の利用

1 解き方の基本 (その5)

(3/4) ■ 過不足の問題 (等置法) ② ■

◇ 《いくら分を表す等式を作る》 **学力化** → /

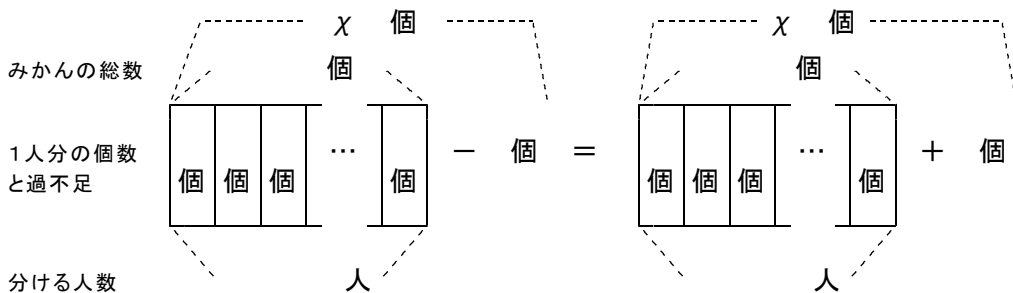
★演習★【1】

(1) 子どもが何人が集まっているので、みかんとを4個ずつ配ろうと思ったが5個足りないので、3個ずつ配ったら7個余りました。

みかんの個数と子どもの人数を求めなさい。

ただし、みかんの個数を x 個として方程式を立てて答なさい。

【考え方】みかんの総数を x 個として、数量関係を図に表すと、



子どもの人数は等しい

[考える手順]

1 未知数を決める

2 方程式を立てる

[答 案]

子どもの人数の関係を求める式を作ると、

(次のページへつづく) ↗

□ □ 【方程式 No. 20 (3/4)】 - (2枚目/2枚)

➔ (前のページからのつづき)

3 方程式を解く

これを解いて,

4 たしかめ

みかんの総数を 個とすると, 子どもの人数は,

場合 1

.....

場合 2

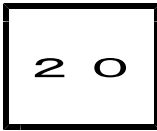
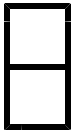
.....

となり等しい。

よって, これは問題に合っている。

5 答を書く

答 _____



方程式 2・1 次方程式の利用

1 解き方の基本 (その5)

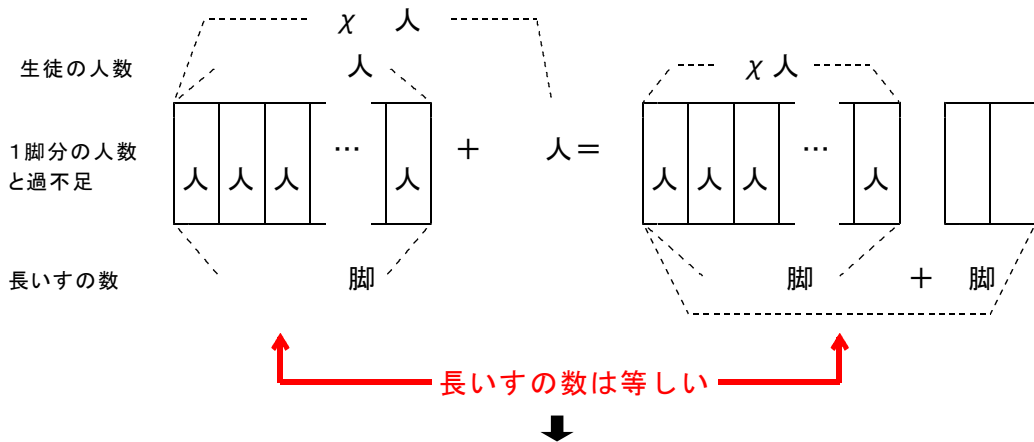
(4 / 4) ■ 過不足の問題 (等置法) ② ■

◇ 《いくら分を表す等式を作る》 **学力化** → /

★演習★【2】

(1) 生徒の集会で、長いす1脚に4人ずつかけさせると35人がかけることができませんでした。そこで、5人ずつかけさせると長いすが2脚余りました。この集会に集まった生徒の人数と長いすの数を求めなさい。
ただし、生徒の人数を x 人として方程式を立てて答えなさい。

【考え方】 生徒の人数を x 人として、数量関係を図に表すと、



[考える手順]

1 未知数を決める

2 方程式を立てる

[答 案]

長いすの数の関係を求める式を作ると、

(次のページへつづく) ↗

□ □ 【方程式 No. 20 (4/4)】 - 〈2枚目/2枚〉

➔ (前のページからのつづき)

3 方程式を解く

これを解いて,

4 たしかめ

生徒の人数を 人とすると, 長いすの数は,

場合 1

.....

場合 2

.....

となり等しい。

よって, これは問題に合っている。

5 答を書く

答 _____